

平成 29 年度 実績

社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団

兵庫県立こども発達支援センター

平成 29 年度 実績

1 診療実績

(1) 事前協議

受診希望者について市町窓口事前協議を実施し利用申込書を受け取る。(詳細は「利用の手引き」参照)

<月別事前協議件数>

	29年									30年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
件数	21	23	40	42	30	27	22	27	39	17	24	39	351

※受診の有無に関わらず全件を掲載

<事前協議から初診までの日数>

日数	件数
～30日まで	2
31～60日	6
61～70日	1
71～80日	2
81～90日	3
91～100日	6
101～110日	26
111～120日	57
121～130日	62
131～140日	56
141～150日	39
151日以上	40
その他	8
計	308

(2) 利用患者数

	29年									30年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
初診数	21	26	27	22	31	27	28	23	27	25	25	26	308
再診数	238	263	270	290	290	315	344	318	285	288	279	300	3,480
利用延数	259	289	297	312	321	342	372	341	312	313	304	326	3,788

(3) 初診患者内訳

初診患者に関する属性は下記の通りである。

<初診時年齢>

年齢	患者数
0歳	6
1歳	4
2歳	28
3歳	57
4歳	42
5歳	55
6歳	22
7歳	23
8歳	21
9歳	18
10歳	9
11歳	9
12歳	5
13歳	4
14歳	5
15歳以上	0
計	308

※0歳児6名、1歳児2名はダウン症候群児である

<性別>

性別	患者数
男性	235
女性	73
計	308

<受診の目的>

受診の目的	患者数
診断を受けたい	81
療育を受けたい	15
診断と療育を受けたい	185
気になる症状がある	9
セカンドオピニオン	6
その他	12
計	308

<紹介市町>

市町	患者数
神戸市	10
姫路市	0
尼崎市	1
明石市	144
西宮市	2
洲本市	5
芦屋市	0
伊丹市	0
相生市	0
豊岡市	0
加古川市	20
西脇市	1
たつの市	1
赤穂市	1
宝塚市	0
三木市	21
高砂市	22
川西市	0
小野市	9
加西市	0
篠山市	1
丹波市	0
南あわじ市	2
朝来市	0
淡路市	2
宍粟市	0
加東市	0
猪名川町	0
多可町	0
稲美町	27
播磨町	33
市川町	1
福崎町	3
太子町	0
上郡町	0
神河町	1
県外	1
計	308

<診断>

発達障害に関連する主たる診断名
(ICD-10による分類)

疾患名	患者数	
PDD	39	12.7%
PDD+ADHD	16	5.2%
PDD+ADHD+その他	7	2.3%
PDD+ADHD+MR	2	0.6%
PDD+ADHD+LD	4	1.3%
PDD+ADHD+MR+LD	1	0.3%
PDD+LD	3	1.0%
PDD+LD+その他	1	0.3%
PDD+MR	45	14.6%
PDD+MR+その他	2	0.6%
PDD+その他	18	5.8%
ADHD	16	5.2%
ADHD+LD	6	1.9%
ADHD+LD+その他	1	0.3%
ADHD+その他	10	3.2%
LD	3	1.0%
LD+その他	4	1.3%
MR	50	16.2%
MR+その他	6	1.9%
その他	70	22.7%
評価中・未診断	4	1.3%
計	308	100.0%

「その他」の内訳 (重複あり)

	患者数
境界知能	28
不安障害	2
運動発達遅滞	1
適応障害	1
構音障害	7
言語発達遅滞	7
愛着障害	4
吃音	2
緘黙	5
感覚調整障害	1
てんかん	6
睡眠障害	1
難聴	1
起立性調節障害	1
斜頸	1
超低出生体重児	1
ダウン症候群	8
協調運動障害	27
情緒障害	2
不登校	2
被虐待	2
コミュニケーション症	2
不注意	3
診断保留	18
定型発達	7

※PDD：広汎性発達障害 (F84)

ADHD：注意欠陥多動性障害 (F90)

LD：学習能力の特異的発達障害 (F81)

MR：知的障害 (F70-74)

診断名が複数ある患者 200名 65%

知的障害の有無 (境界知能含む)

	患者数	
あり	135	43.6%
なし	174	56.4%
計	308	100.0%

(4) 保育実績

初めてセンターを訪れたこどもにまず保育士が出迎え、診察に同席し、こどもと個別で遊びながらこどもの特性を確認するために行動観察を行う。また、個別療育や集団コミュニケーション療法（別掲）では、各療法士と協働または保育単独で、こどもに合わせた遊びを工夫し発達を促す。

<診療>

	29年										30年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
初診陪席	21	26	26	22	30	25	28	22	26	24	25	26	301	
再診陪席	38	29	37	29	29	37	32	58	32	19	15	26	381	
計	59	55	63	51	59	62	60	70	58	43	40	52	682	

<療育>

	29年										30年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
作業+保育	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
言語+保育	2	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
保育のみ	6	7	5	8	10	12	19	14	12	12	19	17	141	
計	8	8	6	9	11	13	20	15	13	13	20	18	154	

<ダウン症児の赤ちゃん体操教室>

ダウン症児への早期介入を目的に日本ダウン症療育研究会認定赤ちゃん体操指導員と保育士による親子体操を実施した。低緊張のダウン症児の運動発達を促すとともに発達の特徴を理解することで子どもへの理解や愛着を深めることが目的である

	29年										30年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
初診	0	0	3	1	0	2	0	0	1	0	0	0	7	
参加者	0	0	3	4	3	6	6	5	3	6	4	6	46	

(5) 心理実績

臨床心理士が心理検査を行い、こどもの発達の段階を客観的に確認し、支援の参考にする。面談では、具体的な対処法についてや、こどもの特性に対する理解を深めるために、本人や保護者と話し合う。また、必要に応じて、地域の園や学校と連携し、情報を共有してこどもへのバックアップを行う。

<心理検査数>

	29年												計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
心理検査数	24	25	32	37	35	45	38	29	27	27	27	28	374

初診患者が発達検査を他機関で過去1年以内実施済みである場合は、他機関で実施した検査を参考に当センター初診・再診時に陪席して行動観察を行い、評価を実施する。

<心理検査内訳>

		29年												計	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
発達	対面式	K式	16	17	15	16	19	20	13	17	18	13	11	15	190
		WISC	5	4	8	11	12	15	17	6	3	10	9	9	109
		その他	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3
	質問紙	津守	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	0	0	1	1	0	3	0	1	0	0	0	0	6
人格		0	0	1	0	1	2	1	1	0	2	0	0	8	
その他		2	4	7	8	3	5	7	3	6	2	7	4	58	
計		24	25	32	37	35	45	38	29	27	27	27	28	374	

<うち再検査(再掲)>

	29年												計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
K式	1	1	6	6	8	4	0	3	2	3	3	3	40
WISC	0	0	1	4	6	2	6	1	0	2	0	1	23
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
再検査計	1	1	7	10	14	6	6	4	2	0	3	4	58
心理検査計	24	25	32	37	35	45	38	29	27	27	27	28	374

診療開始から1年が経過した平成25年度から、再検査を必要とする患者には半年～1年程度の期間を開けて再度、心理検査を実施した。

<心理検査以外>

		29年										30年			延人数	実人数
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
診察陪席		44	29	37	23	23	47	48	51	24	48	35	20	429	335	
こども支援	かべんが	3	0	1	0	2	0	1	2	3	0	1	1	14	4	
	他	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	3	3	
保護者支援	面接	0	0	0	1	1	0	1	1	3	1	2	3	13	8	
	電話	26	15	31	17	15	8	13	9	8	13	11	4	170	117	
地域連携	電話	9	13	6	21	4	7	9	8	10	4	5	13	1	65	
	会議	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

(6) 療育実績 (言語聴覚療法・作業療法)

言語聴覚士 (以下 ST)、作業療法士 (以下 OT) は、年齢や障害の程度、ニーズなどに対応した個別のリハビリテーションプログラムに基づいて、療育を提供している。治療時間と頻度は、対象者の障害状況や年齢、家庭の状況などを配慮して設定される。こどもの持つ機能や能力を伸ばすための直接的な関わりに加え、保護者に対しては、こどもの特性の理解を深めたり日常生活での具体的な対応を助言している。

① 言語聴覚療法

療育評価では、国リハ式<S-S 法>言語発達遅滞検査、質問-応答関係検査、学齢版言語・コミュニケーション発達スケール (LCSA) などの言語検査を実施し、こどもの言語能力とコミュニケーション力の評価を行っている。読み書きの苦手な児童には、小学生の読み書きスクリーニング検査を実施することもある。検査に乗りにくい乳幼児や検査の対象年齢を超えている児童には、あそびや会話を通して行動観察を行い、コミュニケーションスキルを評価している。

個別療育では、個々の課題に合わせたプログラムにより療育を実施している。主に、絵カードを用いた言語理解と表出を促す課題や、他者との関係を保ちながらコミュニケーション力を育むプレイセラピーを行っている。センターでの療育場面だけでなく、家庭や園でも取り組める課題や関わりの助言を積極的に行っている。

	29年										30年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
療育評価件数	24	22	29	25	25	22	30	23	19	22	23	20	284	
療育件数	57	60	61	67	48	66	64	72	61	67	53	55	731	
合計	81	82	90	92	73	88	94	95	80	89	76	75	1,015	

② 集団コミュニケーション療法

就学を控えた5歳児を対象に、こどもの困りごとによりクラスを編成し、STと保育士が担当して活動を行っている。集団コミュニケーション療法はそれぞれ1単位20分、1回の活動につき3単位で実施している。

目的：小集団の中で同年代のこどもと一緒に活動することで、園や学校など集団場面で抱える問題点について評価する。また、活動を通して、他者に伝えることや尋ねること、他者と協力することなどを経験し、社会性の向上を図る。

期間・回数：こども1人ひとり個別に設定 概ね6回程度

頻度・実施時間：月1回、月曜日または水曜日 14:30～15:30

構成人数：3～5名

内容：自己紹介、自由会話、着席活動、ルールのあるゲーム、共同制作

担当職種：言語聴覚士、保育士

	29年			30年									計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
集団療育件数	0	0	0	0	7	7	8	9	8	7	8	0	54

③ 作業療法

療育評価では、日本感覚インベントリー（JSI-R）、日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査（JMAP）、フロスティグ視知覚発達検査、感覚処理・行為機能検査（JPAN）、機能的自立度評価表（WeeFIM）などを用いて、こどもの運動、感覚、生活動作を評価する。

運動は、歩く・座るなどの姿勢と運動、手の使い方、スキップや縄跳びなどの協調運動、運動企画、ボディイメージについて、感覚は、感覚の処理能力と知覚・認知能力について、生活スキルは、着替えや排せつなどの生活動作を確認しながら、問題がある場合はその原因を明確にし、対応を検討する。

療育では、評価をもとに目標とプログラムを立案し、こどもへのセラピーだけでなく、生活環境や活動への介入を行う。

	29年			30年									計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
療育評価件数	22	23	28	22	26	20	31	23	20	20	22	23	280
療育件数	64	66	73	66	64	78	77	74	72	70	69	78	851
合計	86	89	101	88	90	98	108	97	92	90	91	101	1,131

2 事業実績

(1) 出張発達健康相談

センターへの来所が困難で、医師による発達障害の診断・療育をうける機会が少ない地域に、センターの職員が出向き、児童の発達にかかる健康相談を実施する。

①対象者：乳幼児から概ね15歳までの児童で、発達障害の疑いがある者、又は発達障害と診断された者で、発達、情緒・行動面等の問題において課題を抱えている者

②対象地域：県内全域

③事業内容：相談及びカウンセリングの実施

④派遣職種：医師、臨床心理士（以下 心理士）、保育士等

⑤実施方法：市町からの要望を集約し、市町と協議のうえ年間出張計画を策定し、実施
(費用は無料)

実施日	市町名	相談者数	派遣職種
29年 5月24日	たつの市	4名	医師、心理士、保育士
6月2日	南あわじ市	1名	医師、心理士、保育士
6月9日	三田市	3名	医師、心理士、保育士
6月28日	佐用町	4名	医師、心理士、保育士
7月14日	西脇市	1名	医師、心理士、保育士
7月28日	神河町	2名	医師、心理士、保育士
9月8日	豊岡市	3名	医師、心理士、作業療法士
11月8日	豊岡市	3名	医師、心理士、作業療法士
11月24日	加西市	2名	医師、心理士、保育士
12月1日	南あわじ市	3名	医師、心理士、保育士
30年 2月21日	たつの市	4名	医師、心理士、保育士
3月2日	小野市	3名	医師、心理士、保育士
9市町 (12回)		33名	

(2) 派遣発達支援（療育体制づくりの支援）

市町の要請に基づき、市町の療育体制を新しく整備する場合や現在の体制をより充実させる場合に、その計画や内容に対する助言等を行うため、センター職員を各市町に派遣し、療育体制づくりを支援する。

①対象地域：県内全域

②事業内容：市町の療育体制づくりへの支援、核となる支援機関への支援、派遣支援後の定期的なフォローアップ

③派遣職種：臨床心理士、作業療法士、言語聴覚士、保育士等

④実施方法：派遣を希望する市町から協議を受け、契約を締結のうえ派遣

実施日	市町名	派遣職種
29年 7月 14日	養父市	作業療法士
8月 9日	宍粟市	心理士、保育士
8月 21日	たつの市	作業療法士
8月 30日	三木市	言語聴覚士
9月 9日	三木市	作業療法士

(3) 研修・情報提供等

こどもが成長発達する過程に携わる保健師や保育士、支援過程で関わる専門職の心理士、言語聴覚士等、支援者のスキルアップのため、センターの職員や外部専門家の特色を活かした研修を企画実施した。

- ① 内 容：講義、実地研修
- ② 対象者：保健師、保育士、支援員、心理士、言語聴覚士、作業療法士等
- ③ 講 師：こども発達支援センター職員、その他必要に応じ外部講師
- ④ 経 費：受講者負担（こども発達支援センターの研修受講料等徴収要領による）

<基礎研修>

実施日	テーマ・内容	講師	参加者	場所
29年 5月 31日	[講義] 発達障害の基礎知識	保育士、心理士	28名	センター
7月 13日	[実地研修] 療育場面見学 ふりかえり	心理士、作業療法士	3名	
8月 10日		保育士、言語聴覚士	5名	
8月 31日		心理士、作業療法士	6名	
9月 14日		心理士、言語聴覚士	5名	
9月 28日		保育士、作業療法士	4名	
10月 12日		保育士、言語聴覚士	3名	
10月 13日		[講義] 発達障害の基礎知識	保育士、心理士	
10月 26日	[実地研修] 療育場面見学 ふりかえり	心理士、言語聴覚士	4名	
11月 9日		保育士、作業療法士	5名	
12月 7日		保育士、言語聴覚士	4名	
30年 1月 11日		心理士、作業療法士	5名	
2月 1日		保育士、言語聴覚士	1名	

<スキルアップ研修>

実施日	テーマ・内容	講師	参加者	場所
29年 6月14日	読み書きにつまずきのあるこどもの支援	言語聴覚士 作業療法士	38名	センター
7月19日	検査や評価から見えるこどもの姿 ～結果を支援に活かすために～	言語聴覚士 心理士	41名	センター
30年 1月17日	「合理的配慮としてのコミュニケーション支援」 講師：児童精神科医 門 眞一郎氏		133名	複合型交流拠点 ウィズあかし
2月23日	「発達障害児への幼児期からの支援」 講師：神戸総合医療専門学校 言語聴覚士科 西田 和子氏		36名	センター
29年 9月27日	連続講座	保育士 心理士	17名	センター
12月22日	「発達障害児への療育的な関わり」	保育士 作業療法士	15名	センター

<発達障害サポーター養成講座（児童期）>

ひょうご発達障害者支援センターの事業に参画して実施した。

実施日	テーマ・内容	講師	参加者	場所
29年 6月8日	療育場面見学・ふりかえり	言語聴覚士 心理士	5名	センター
7月27日		作業療法士 保育士	6名	

<平成29年度子どもの理解と発達支援研修（中堅職員向け）>

兵庫県社会福祉研修所からの依頼により、講師を務めた。

実施日	テーマ・内容	講師	参加者	場所
29年 12月12日	発達障害の基礎知識	保育士 心理士	71名	兵庫県社会 福祉研修所

<広報活動等>

情報提供としてインターネットホームページ (<http://hwc.or.jp/kodomohattatsu/>) の更新等により、発達障害について情報を発信するとともに、相談窓口の紹介を行う。

(4) 市町連携強化事業

兵庫県の委託により、センターと市町担当部署との連携を強化するため、地域別に市町及び関係機関との連絡会を開催した。

実施日	テーマ・内容	参加者	場所
30年 2月16日	・センター実績報告 ・兵庫県障害福祉課報告 ・ひょうご発達障害者支援センター クローバー報告	市町、 こども家庭センター、 健康福祉事務所、 ひょうご発達障害者支援 センター・各ブランチ	神戸市 教育会館

(5) 教育連携

①特別支援教育センター研修

実施日	テーマ・内容	講師	研修会名
29年 12月12日	発達障害の理解と対応	センター長	県立特別支援教育センター 平成29年度県立特別支援学校 初任者研修

②高砂市特別支援教育専門家チーム委員会

(6) 市町助言

市町	テーマ・内容
たつの市	5歳児発達相談事業事前検討会（1回） 5歳児発達相談の診察及び処遇検討の助言（4回）

(7) その他

①実習生の受入

学校名	実習内容	人数	時期	実習時間
兵庫医療大学	OT 評価実習	1名	平成29年10月	13日間
兵庫医療大学	OT 基礎臨床実習	2名	平成30年2月	4日間
神戸医療福祉専門学校三田校	ST 体験実習	1名	平成29年9月	14日間
神戸総合医療専門学校	ST 臨床実習	1名	平成30年2月	5日間

②見学研修の受入

行政関係	50名	教育関係	3名
医療関係	1名	福祉関係	0名
		計	54名

<参考資料>

平成 29 年度：市町・圏域別センター利用状況（1）

圏域	市町	初診患者	%	圏域別	%
神戸	神戸市	10	3.2%	10	3.2%
東播磨	明石市	144	46.8%	246	79.9%
	加古川市	20	6.5%		
	高砂市	22	7.1%		
	稲美町	27	8.8%		
	播磨町	33	10.7%		
北播磨	西脇市	1	0.3%	31	10.1%
	三木市	21	6.8%		
	小野市	9	2.9%		
	加西市				
	加東市				
	多可町				
中播磨	姫路市			5	1.6%
	神河町	1	0.3%		
	市川町	1	0.3%		
	福崎町	3	1.0%		
西播磨	相生市			2	0.6%
	たつの市	1	0.3%		
	赤穂市	1	0.3%		
	宍粟市				
	太子町				
	上郡町				
	佐用町				
淡路	洲本市	5	1.6%	9	2.9%
	南あわじ市	2	0.6%		
	淡路市	2	0.6%		
阪神北	伊丹市				
	宝塚市				
	川西市				
	三田市				
	猪名川町				
阪神南	尼崎市	1	0.3%	3	1.0%
	西宮市	2	0.6%		
	芦屋市				
丹波	篠山市	1	0.3%	1	0.3%
	丹波市				
但馬	豊岡市				
	養父市				
	朝来市				
	香美町				
	新温泉町				
県外		1	0.3%	1	0.3%
		308	(100%)	308	(100%)

平成 29 年度：市町・圏域別センター利用状況（2）

圏域	市町	診療	研修	出張発達	派遣発達
神戸	神戸市	○	○		
東播磨	明石市	○	○		
	加古川市	○	○		
	高砂市	○	○		
	稲美町	○	○		
	播磨町	○	○		
北播磨	西脇市	○	○	○	
	三木市	○	○		○
	小野市	○	○	○	
	加西市		○	○	
	加東市		○		
	多可町		○		
中播磨	姫路市		○		
	神河町	○		○	
	市川町	○			
	福崎町	○	○		
西播磨	相生市				
	たつの市	○	○	○	○
	赤穂市	○	○		
	宍粟市		○		○
	太子町				
	上郡町		○		
	佐用町		○	○	
淡路	洲本市	○	○		
	南あわじ市	○	○	○	
	淡路市	○	○		
阪神北	伊丹市		○		
	宝塚市		○		
	川西市		○		
	三田市		○	○	
	猪名川町				
阪神南	尼崎市	○	○		
	西宮市	○			
	芦屋市		○		
丹波	篠山市	○			
	丹波市		○		
但馬	豊岡市		○	○	
	養父市		○		○
	朝来市				
	香美町				
	新温泉町				
		20 市町	31 市町	9 市町	4 市町